

『ロンドン・アイの謎』

シヴォーン・ダウド／著
越前 敏弥／訳
東京創元社



テッドは、姉のカットといとこのサリムと一緒に巨大な観覧車ロンドン・アイに乗りに行きます。見知らぬ男にチケットを譲ってもらい、サリムだけたくさんの乗客と一緒に観覧車に乗り込みます。ところが、一周して帰ってきた乗客の中にサリムの姿がありません。観覧車からサリムはどうやって消えたのか、テッドの謎解きが始まります。

『鳥は恐竜だった』

鳥の巣からみた進化の物語』

鈴木 まもる／作・絵 アリス館



世界中には9000種類以上の鳥がいます。鳥の巣や卵、子育ての違いを調べれば、なぜ恐竜が絶滅し、鳥が生き残ったのかわかるのでは？と思ひ、鳥の生態を研究しました。恐竜の巣を今いる鳥から考えたり、大きなティラノサウルスと小さなモリツグミを「子孫を残す」という視点で比べてみたりと、恐竜から鳥への進化に迫ります。

『自由を求めて冒険へ！』

動物たちとの4千キロ冒険記』

春間 豪太郎／著 日本標準

世界を旅する春間さんの冒険が3つ掲載されています。最初の舞台はモロッコ。モロッコでの初めの相棒はロバのモカです。春間さんは警戒心の強いモカともすぐに仲良くなります。次にネコのラテ。旅がすすむにつれてどんどん仲間が増えていきます。この本で、春間さん達と一緒に、色々な人と出来事に出会う冒険にでかけましょう。



2023年

富田林市立図書館から

中学生のあなたへ

夏のおてがみ

夏休みが始まる

勉強、宿題、塾、習い事、友達付き合い——

目まぐるしい毎日

少し疲れてしまった時には

本という別の世界で息抜きしませんか？



『世界の市場』

おいしい！たのしい！

24のまちでお買いもの』

マリヤ・バーハレワ／文

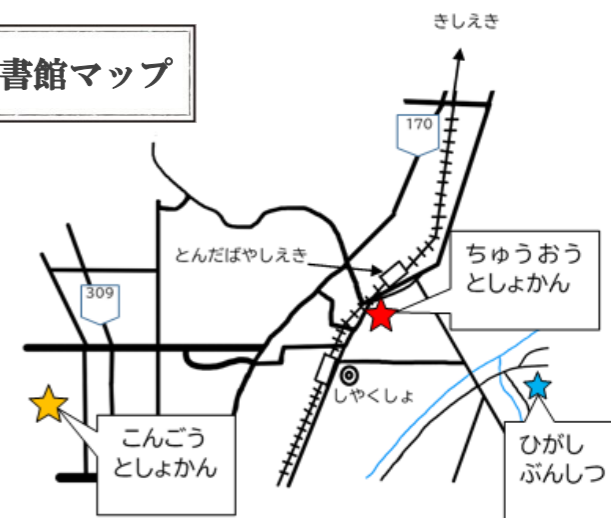
アンナ・デスニツカヤ／絵

岡根谷 実里／訳 河出書房新社

中東のイスラエルではデーツ、広く海に接するチリではウニや貝。市場には、その地域ならではの食べ物が並びます。本書は、世界の24のまちの市場を、色彩豊かな絵で紹介しています。新鮮な食材やおいしいおやつはもちろん、買い物を楽しむ人々のいきいきとした姿も魅力のひとつです。市場めぐりの旅に出かけましょう。



図書館マップ



『パフィン島の灯台守』

マイケル・モーパーゴ／作

ベンジー・デイヴィス／絵

佐藤 見果夢／やく 評論社

ベンジャミンはパフィン島の灯台守です。ある大嵐の夜のこ、ペリカン号がパフィン沖で座礁する事故がおきました。ベンジャミンはすぐさまボートで救助に向かい、30人の命を救いました。その時助けられた少年は、陸に戻ってからもベンジャミンに会いたいと思ひ続けました。世代が違ふベンジャミンと少年の友情を描いたおはなしです。



『死者のひみつ』

世界のミイラ』


マット・ラルフス／文

ゴールドイ・ライト／絵

山根 玲子／訳

BL出版

ミイラには自然にできたミイラと、意図してつくられたミイラがあります。意図してつくられたミイラでは古代エジプト人が有名ですが、アルプスの高地で発見された男性のミイラは5000年もの間、氷の中で冷凍庫のような環境にありました。X線やCT スキャンといった最新技術を使い世界中のさまざまなミイラの秘密を紹介しています。



『すばらしき宇宙の図鑑』
野口 聡一／著 KADOKAWA

本や、映画でよく見る宇宙のことを、宇宙飛行士である作者が分かりやすく説明しています。たとえば、宇宙ではどんな食事をしているのか。また、寝るときはどうしているのか。みんなが思う疑問に答えてくれます。もちろん、太陽系の惑星のことや、人工衛星のことも書かれています。この本で宇宙への扉を開いてみましょう。

『すなはまのバレリーナ』
エリアナ・パヴロバのおくりもの』

川島 京子／文
ささめや ゆき／絵 のら書店

明治時代に、ロシアから亡命してきたエリアナ・パヴロバというバレリーナが鎌倉でバレエ学校を開きます。生徒に「どこへいっても、なにももっていなくても、身につけたおどりは、一生の財産になるのですから」と厳しい練習を行います。その後戦争に巻き込まれながらもバレエを続けたエリアナ・パヴロバの半生が描かれています。



『神社のえほん』

羽尻 利門／作 あすなる書房

お正月の初詣や夏祭など、一度は行ったことのある神社について知りましょう。神社の中で見かける、色々な建物や装飾など、それぞれに名前があり、意味があります。ページをめくると、たくさんのイラストで説明されています。手水の取り方や拝礼のことも書かれていますので、次に神社に行ったときに思い出してください。



『地球の中に、潜っていくと…』

入船 徹男／文
関口 シュン／絵 福音館書店



ハルキとアユは科学者のおじいちゃんと一緒に、ダイヤモンド号に乗って海の下へと潜っていくよ。日本海溝へ着くと海洋プレートに乗ってゆっくりと地球の中心へと進んでいく。マントルをぬけて外殻というところではけた鉄がぐるぐるとまわり地球の磁場をつくっているんだって。さあ地球の中心の内殻にはなにがあるんだろう。

『おにのまつり』

天川 栄人／著 講談社



うらじゃは、岡山県で夏に行われるお祭りです。中学生のあさひは、3年生の有志でうらじゃを踊るプロジェクトに参加しないかと声をかけられます。あさひは大好きな兄が亡くなったばかりで、その兄が打ち込んでいたものがうらじゃでした。いろいろな悩みや苦しみを抱えながら、うらじゃの練習に励むあさひ、桃香、絢子、楽々、タケルの5人の物語です。

『空と大地に出会う夏』

濱野 京子／作 しらこ／絵

くもん出版

梅雨時の土曜日。何でもそつなくこなす理一郎はピアノ教室の帰り道、突然、同級生の海空良に電車賃の工面を頼まれる。しかも一緒にきてほしいと言う。理一郎は理由が明確でない事は好きではない。なのに海空良は理一郎を引っ張っていく。知り合いの家でお菓子作りをするのだと話しながら着いた先には、意外な相手が居たのだった。



『和ろうそくは、つなぐ』

大西 暢夫／著 アリス館



和ろうそくは普段私たちが使う西洋ろうそくとはちがいで、一本一本職人が手作りしています。作業工程はとて多く、手間がかかります。原料になる蠟は木の実をしぼったものなのですが、しぼりカスも次の仕事に使われるなど、捨てるどころがありません。和ろうそくを通して職人たちの様々な知恵を知ることができます。

『ゆりかごになりたい、とヤナギは言った』

ベッテ・ウェステラ／文
ヘンリエット・ブーレンダンス／絵
塩崎 香織／訳 化学同人



木々が話をしています。大きくなったら、ナラの木はたんすに、ブナの木はおもちゃになると言いました。他の木たちも、大きくなったら何になるかを次々に言いました。ところが、シダレヤナギだけは「なんにもならない。朽ちる。」と言いました。やがて、木たちは伐採されていきましたが、シダレヤナギは残りました。そして何年もかけて朽ちるのでした。

読み継がれてきた名作

『すばらしいとき』

ロバート・マックロスキー／文・絵
わたなべ しげお／訳 福音館書店 1987年

ペノブスコット湾に浮かぶある島のお話です。春は朝早くに起きて霧を楽しみます。夏は海で泳いだり、夜にはひっそりと自分たちだけでボートに乗り、海底をライトで照らしたり、夜空を楽しみます。嵐が来てもみんなで声をあわせてお話を読むから全く怖くありません。でも、もう帰る季節です。今年の夏は見納めです。

